（別紙２－４）

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　　総括表

法人名	医療法人社団　松涛会	代表者	斎藤　妙子
事業所名	小規模多機能 ケアタウン江の浦	管理者	中島　一圭

法人・事業所の特徴	家庭的な環境を作り、安心、安全な日常生活を送れるよう支援している。行事、外出支援も充実している（本年度は、外出はほとんど出来ませんでしたが）。敷地内には、内科があり、往診や緊急時の受診で適切な医療が受けられ、安心した生活を送る事が出

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	1人	1人	人	4人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	利用者の情報収集の方法を見直す。個々の職員が集めた情報が有意義に利用出来るようにしていく。伝達方法に関しても、より良い方法を探していく。	情報を記入するフォーマットは出来上がった。まだまだ、記入状況にムラがあるし、情報の活用も、改善が必要である。伝達も完璧に行われているとは言い難い。	今年度の運営推進会議は、12月の第５回が初開催。その際に簡単な説明しかしていないが、良い意見を頂けた。	情報収集用のフォーマットの活用を進める。利用者、担当職員による差を無くしていく。伝達も、書面、口頭伝達を併用し、抜けが無いようにしていく。
B．事業所のしつらえ・環境	季節ごとの飾りつけは上手に出来ているのでレベルを落とさないようにする。感染対策として、清潔を保つようにしていく。	外部との交流が出来ない分、施設内での季節感の演出には力を入れた。良く出来ていたと思う。しかし、面会の制限はあったので、入りやすさはなかった一年であった。	この項目に関しては、「わからない」という意見が多数。家族や地域の方の入りやすさの項目で、「いいえ」の意見があったので、要改善。	季節やイベントごとに、しっかりと変化をつけた演出を行う。この点に関しては、レベルが年々上がっているので、この流れを切らさない様にする。
C．事業所と地域のかかわり	状況が良くなれば、地域との交流は積極的に進める。前回の改善計画と同様の事を実行し、事業所行事への、地域の方の参加を促す。	コロナの感染状況は、本年度も変わらず。地域との関わりなどの項目は、評価出来るような状況ではなかった。	地域行事は、本年度はほとんど行われておらず、参加についての項目は「行事がなかったから」と書いてある意見もあった。	状況次第ではあるが、施設のイベント（夏祭りなど）に地域の人の参加を促す。町内の回覧板に掲載し、認知度を高めていく。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	上記の項目と同様で、前回の改善計画を、状況が許せば、実行していく。	C.の項目と同様で、地域に出向くことは難しい一年であった。その中でも、可能な限り、外の空気は吸ってもらえるようには出来た。	実際には、一年間コロナ禍が続いたので、感染者が少なくなった際に、近所の散歩に出た程度と説明しただけだが、良い意見をもらえた。	利用者の方の歩行能力が、全体的に落ちてきている。こちらが出向くより、ボランティアの方に来てもらうようにしていく。
E．運営推進会議を活かした取組み	会議を開催できる状況なら、情報交換をしっかりと行い、地域との繋がりを保っていく。	本年度も、実施出来た運営推進会議は、第５回の一回のみ。開催予定が、直前で、感染状況が悪化し、開催不可能になったことがあった。	A.の項目でも書いたが、運営推進会議は一度しか開催出来ず。それでも、過去の実績があったからか、「はい」の評価が過半数あった。	開催状況が、現時点では全く予想がつかない。可能な限り開催し、地域との交流、情報交換を行っていく。
F．事業所の防災・災害対策	これも前回の改善計画が可能な状況になれば、地域の方にも避難訓練に参加してもらい、本当の災害時に連携出来るようにしていく。	本年度の避難訓練は、２回行なったが、共に施設内の職員、利用者だけで行った。消防署の方が立ち入ることも出来ない状況では、地域との連携どころではなかった。	防災訓練は、施設内の内輪のみで行った。年２回行なっている事だけは認識してもらえた。	この項目も状況次第。避難訓練に地域の方も参加してもらう。ＢＣＰの策定も進めている。完成すれば、地域の方とも情報共有していく。